

庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」(新型コロナウイルス感染拡大対応)

完了報告書

令和 2 年 11 月 27 日

助成対象者：特定非営利活動法人 Little Bees International

助成対象事業：コロゴッチョスラムの女性と子どもたちへの緊急生活食糧支援及び COVID-19 感染拡大防止のための公衆衛生支援活動

助成額：700,000 円

コード番号:20-S-016

達成目標：

- ・コロゴッチョスラムの HIV 陽性者、シングルマザー、ストリートチルドレンが適切な生活必需品を支給され、COVID19 の予防対策を実施することで保護される。
- ・COVID19 感染拡大防止のための適切な知識・情報に基づく対応がとられることで、コロゴッチョスラムの住民の間での不安が払しょくされ、住民間の連帯が深まり暴力事件が減少し、コミュニティの安全性が高まる。

○LBI 女性グループと CHW(コミュニティヘルスワーカー)の活動

LBI では、HIV 陽性やシングルマザーの女性たちを中心に生活自立支援のための洋裁活動を行っておりますが、特にナイロビの都市封鎖が実施された後では、時間に余裕のできた女性たちが参加を希望し日によっては作業場が混雑する状況が見られました。COVID-19 の感染防止対策のため、9 月からはコロゴッチョに隣接するババドゴ地区に 20~30 名程度が余裕をもって作業できるスペースを開設しています。作業開始前には全員の体温測定と消毒を義務化しています。万一の事態に備え、通常は希望する方はどなたでも参加できるようにオープンにしておりますが、症状が出た場合に感染経路を特定できるよう、参加希望者をリスト化し備えています。幸いなことにワークショップ参加者から 11 月末時点で症状の出た方はおりませんし、連帯意識も高まってきております。特に HIV 疾患のある参加者のケアも行いながら、引き続き十分な配慮を行って参ります。

(作業場でマスクを製作する女性たち)



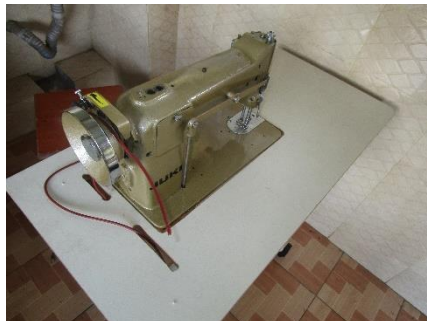


⇐作業開始前の検温と消毒

(新しい作業場)

(購入したミシン 1 台目)

(購入したミシン 2 台目)



○COVID-19 予防啓発活動

現地ケニアで 20 年近く保健活動を実践されている NPO 法人イルファアの稲田先生に、LBI の CHW(コミュニティヘルスワーカー)は、直接 COVID-19 に係る予防啓発のための指導を受け、コミュニティの住民を対象にマスクの着用や手洗いの指導、COVID-19 の予防のためのチラシの作成と配布、住民の健康調査も行っています。

(コミュニティでの稲田先生によるご指導)



(COVID-19 の予防啓発チラシ)

HATUA MSINGI ZA KUJIKINGA DHIDI YA VIRUSI VYA CORONA



Osha mikono yako mara kwa mara kwa kutumia sabuni na maji ya bomba.



Weka mita moja unusu kati yako na wenzako.



Epuka magusano ya kimwili, salamu za mikono na kukumbatiana.



Vaa barakoa kila wakati hadharani.



Chafya kwenye kiviwiko chako au funika mdomo kutumia tishu.



Ikiwa una dalili za maambukizi kama vile; joto, homa, kikohozi na shida ya kupumua, tafuta msaada wa matibabu mapema.



LBI inasaidia watu wa Korogocho



○食糧支援&生活物資の配布

貴緊急助成様からのご支援により、LBIでは、7月、8月、9月とコミュニティの約300世帯を対象に食糧パックの配布、生活物資の支援を実施しております。食糧支援では、ケニアの元青年海外協力隊員で、現地で小農家組合アルファジリを立ち上げられた薬師川様との協働で、有機農法による新鮮な野菜や果物を調達しております。特に、いまアフリカで栄養改善のためのキーとして注目され、農村での栽培も進んでいる新品種のオレンジサツマイモも取り入れ、現地でも非常に好意的に受け止められています。ささやかではございますが、地域住民、子どもたちに笑顔の広がる、ひと時の生活の安心感を届けることができました。



(石鹸や生理用ナプキンの配布)



(薬師川様のアルファジリのお店)



○学校での予防活動

ケニアでは8月中旬から陽性率が国の目標とする5%を下回り、COVID-19 新規感染者の減少に伴い、授業が再開されています。わたしたちの支援するコロゴッチョスラムでは、学校は身寄りのない子どもたちの暮す場ともなっており、学校での予防啓発、支援活動は、子どもたちの生活を支える大切なものになります。貴緊急助成のお陰で、新たに学校に手洗い場を設置することもできました。検温と手洗い、うがいは、子どもたちを守るための日課にもなっています。

(学校に設置された手洗い場)



(給水タンクでの手洗い)



(先生たちによる検温調査)



(給食で伝統食品ウジを飲む子どもたち)



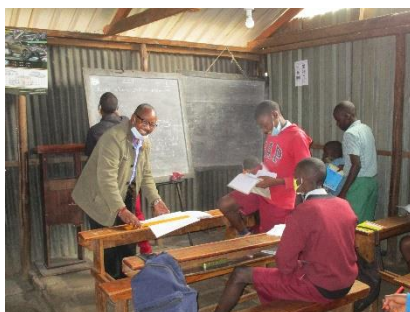
(学校の給食室)



(教室の啓発チラシ)



(教室のマイケル校長先生)



(授業中の風景)



○LBI の COVID-19 対応まとめ

本活動は、庭野平和財団 **NPF** プログラム「緊急助成」（新型コロナウイルス感染拡大対応）により行われております。

期待される成果としては、

- ・ **COVID19** に対する誤解やご情報による不安が収まり生活の安定化が進むとともに、活動を通じてコミュニティの連帯が深まりお互いを支え合う機運が生まれ、危機を乗り越える原動力となる。
- ・ **HV** 陽性やシングルマザーの女性たちが希望をもって生活を営むことができるようになる。
- ・ ストリートチルドレンも、活動を通じて健全な食育が進展するとともに、コミュニティの一体感が深まる中で孤独感から解放され、未来へ向けた歩みを団体が提供する学校教育とともに元気よく進めることできる。

を掲げておりましたが、助成活動実施後は、**COVID-19** を乗り越えようとする力強い連帯の和が、確かにコミュニティの中に広がってきたことも現地からの報告で実感しております。

脆弱な環境下にあるスラムコミュニティで人びとを **COVID-19** の脅威から保護するために **LBI** は、様々な取り組みを進めておりますが、貴助成なくしては効果的な活動を行うことは叶いませんでした。

都市封鎖期間中に、路上マーケットの規模が一気に縮小し、スラムの住民たちにとって安価な食糧へのアクセスが絶たれ死活問題となっておりましたが、ご助成のおかげで生活をつなぐ食糧支援も実施することもできました。また、**COVID-19** から身近な人々を守るためのガイドラインをコロゴッチョで設定し、学校やコミュニティホールを中心に配布も行いました。もちろん女性グループによるマスクの製作と配布も継続しています。自粛期間中の子どもたちのストレスを軽減するためのアートセラピーや都市封鎖期間中に脅威となった **HIV** 感染拡大への対応のためのヘルスワーカートレーニングも実施しています。これも、貴助成によりご支援が得られたこと、また **COVID-19** パンデミック後も現地で、頑張って活動を続けておられる、稲田先生や薬師川様と行った邦人の方たちのご協力あってこそと、深く感謝しております。

ケニアでは、10月中旬からまた少し感染率が上がりましたが、暑い乾季に入りつつある11月下旬では、状況はまた落ち着きつつあります。一方、最近では、マスクをしない人たちも多くみられるようになってきました。まだまだパンデミックの最中にあると、地域住民の方たちへの呼びかけと感染防止の取り組みを引き続き進めて参ります。

ケニアの諺に「急いで行きたければ一人で行きなさい。でも遠くに行きたいのであれば、みんなで行きなさい。」という言葉がございます。これは、LBIの活動を続ける上での大きな指針ともなっておりますが、これからもコロゴッチョコミュニティのみなと協力して、お互いを支え合いながら、この危機を頑張って乗り越えて参ります。

本当にたくさんのご支援とお励みを賜りましたこと、改めまして感謝申し上げますとともに貴財団様の一層のご発展と皆さま方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。今後とも私どもの活動を温かくお見守りくださいましたら幸いです。本当にありがとうございました。

特定非営利活動法人 Little Bees International

代表理事 高橋郷